

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2019年 第24週（6月10日～6月16日）

今週のコメント

～手足口病～ 手洗いの励行と排泄物の適切な処理が重要

定点把握感染症

「手足口病 府内全域で増加続く」

第24週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は4,648例であり、前週比13.4%増であった。定点あたり報告数の第1位は手足口病で以下、感染性胃腸炎、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナ、伝染性紅斑の順で、定点あたり報告数はそれぞれ10.05、5.61、2.86、2.02、0.95であった。

手足口病は前週比42%増の1,979例で、南河内20.38、大阪市北部13.08、泉州12.90、中河内11.25、堺市10.90で、大阪市東部を除く全ブロックで警報レベル開始基準値の5を超えている。

感染性胃腸炎は前週比11%減の1,106例で、南河内10.19、北河内7.11、中河内7.00であった。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は前週比14%減の564例で、南河内5.38、堺市3.79、中河内3.75である。

ヘルパンギーナは前週比52%増の397例で、大阪市北部4.15、南河内3.25、堺市3.05であった。

伝染性紅斑は前週比11%増の188例で、北河内2.15、泉州1.50、堺市1.37である。

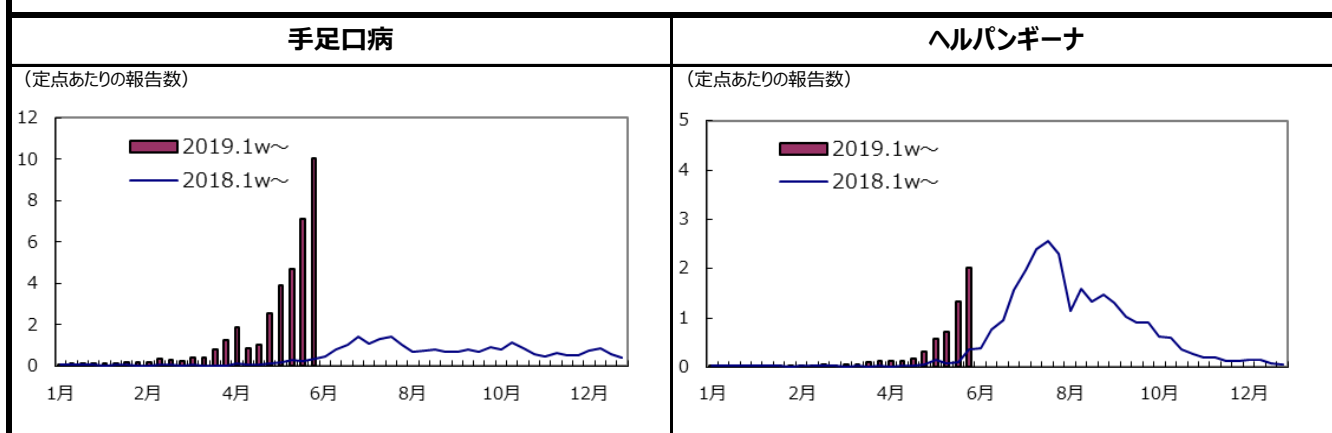


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2019年 第24週6月10日～6月16日）

第24週の順位	第23週の順位	感染症	2019年 第24週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2018年 第24週の 定点あたり 報告数	2019年第24週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	手足口病	10.05	42%増	0.34	1歳_41%
2	2	感染性胃腸炎	5.61	11%減	7.02	1歳_15%
3	3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.86	14%減	2.94	4歳_15%
4	4	ヘルパンギーナ	2.02	52%増	0.36	1歳_39%
5	5	伝染性紅斑	0.95	11%増	0.13	5歳_20%

第24週のコメント

～風しん～ 風しんの患者数は、2013年の流行以降、年々減少していましたが、現在、府内でも風しん患者が報告されています。

全数把握感染症

風しん

風しんは、潜伏期間は2～3週間（平均16～18日）で、発熱、発しん、リンパ節腫脹を特徴とするウイルス性発しん症である。妊婦（妊娠20週頃まで）が風しんにかかると、胎児が風しんウイルスに感染し、難聴、心疾患、白内障、そして精神や身体の発達の遅れ等の障害をもつ可能性がある（先天性風しん症候群）。感染の予防には、2回の風しん含有ワクチン接種が有効である。特に、妊娠する可能性のある女性、妊婦や妊婦の家族と接触する可能性がある方、風しん含有ワクチンの定期接種が行われていなかった世代などに当たる30～50歳代男性について、風しんの感染拡大や先天性風しん症候群の発生を防ぐため、抗体検査やワクチン接種が勧められている。

[感染症疫学センターはこちらへ\(外部リンク\)](#)

[風疹とは\(国立感染症研究所\)](#)

(累積報告数)

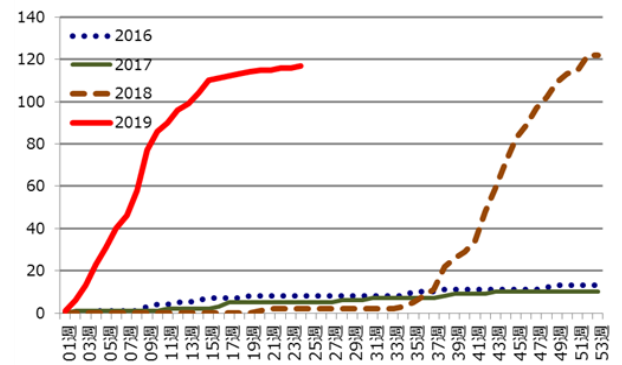


表2. 大阪府全数報告数（2019年 第24週6月10日～6月16日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります

（報告があった疾患のみ記載しています）

疾患名	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	1		1						45
4類感染症	レジオネラ症（肺炎型）	3					1		2	32
5類感染症	アメーバ赤痢	1		1						33
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	2				1	1			75
	後天性免疫不全症候群	2							2	60
	侵襲性肺炎球菌感染症	1				1				157
	先天性風しん症候群	1						1		1
	梅毒	9						2	7	496
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1							1	14
	百日咳	11	4		1		2	2	2	427
風しん	1	1							117	

結核 (2019年4月分) 結核 新登録患者数：134名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 51名)
(府内累積報告数 555名、内 肺・喀痰塗抹陽性 216名)

(2019年6月18日 集計分)